2015年下半期 ①「311　有志」支援活動報告

《7月、８月、９月》

７月4日（土）

昨日、我が家に届いた郵便物開封。和菓子。そして都内のコンサートチケット３枚。一見、関係ない。しかし、これは、どちらも、石巻の縁。和菓子 は、「石巻市民交響楽団」団長夫人から。音楽は食にもつながる。通常のオケトラ（賛助）なら「出演料」を頂くが、我々「３１１　有志」は、いつも辞退して 頂かないので、おそらくその代わり、なのだ。
一方の都内のコンサートは、ヴィオラ奏者東義直さんのアンサンブル。こちらは、もちろん、１名前売り３０００円を振り込んだ入場券。東さんは、２０１２年３月の石巻での演奏会にアマチュアの弦楽器演奏家１５人に加わり、全くのノーギャラ・交通費自己負担で参加頂いた。（この時は、もう一人、和光３・１１のオケ練習指導頂いたヴァイオリン奏者沼田園子さんも）、共に芸大出身でプロオケの トップ、ソロコンミス、「３１１　有志」合奏団３人で聞きに行く。

７月１１日（金）

段ボール箱が届いた。７月２６日（日）「相馬野馬追」団体席チケット、駐車場許可証、ガイドブック、などなど。早速、書きかけの「旅のしおり」にポ イントを記入し始め、気付く。まてよ。前日の茨城六角堂見学のあとの食事処の予約がまだ。店へ。中途半端じゃない量が売り、若者でも残す、とか。なので、電話予約した際、「３０人前を頼んでも食べきれないので、４万で、天ぷら、刺身など一緒盛り」で頼む。当初は「せっかく獲ってきた魚を腹いっぱい食べて欲しい」「ひとり一食で」と渋っていたが、なんとか了解。

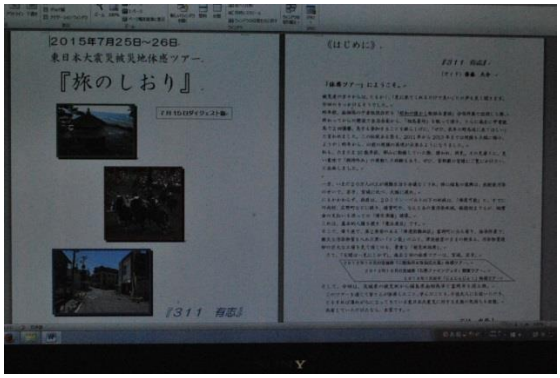
７月１２日（日）

江戸東京博物館大ホール、６時開演。今年、仮設住宅で好評だったパントマイムの池田郁子さんが出演するイベント。彼女は、今年、そして昨年の「和光３・ １１を忘れない」コンサートの司会を無償でしてくれた。

で、肝心の舞台。凄くハードな肉体の使い方で、パントマイムの素晴らしさを感じさせるシーンもあり、反対にモダンダンス風だが、それには敵わない、というやや形式的、スローモーションの多用、で単調なパフォーマンスもあり、さらに中２、中３とは思えぬ「成熟した身 振り」で魅了した若手から、この師匠、後期高齢者まで幅広いメンバーがマスゲームのように一糸乱れぬ動きまで、色々。最後に、支援仲間で「パチリ」。

終わってから、一緒に飲んだ映画プロデューサーから、その時、チラシを手渡された。自分がプロデュースした２０１３年封切り、石垣島舞台、「サンゴレンジャー」の上映会 と、渋谷のカフェでご一緒する絵本作家でユニセフのイラストを描く牛嶋さんの「絵本を作るワークショップ」のイベント。良く見ると、なんと会場は、わが朝霞駅徒歩１分のビル６階、F-site。映画は８月毎週土曜日、１時から２時４０分まで。絵本の方は、８、２２日を除く毎週土曜の３時半～５時半。私は、この映画も見たし、絵本も 作った。両方とも、子供さんでも楽しく見て、遊べる。

７月１３日（月）



７月２５，２６日の「被災地体感ツアー　２０１５」、南相馬市の「野馬追」見学ツアーの「旅のしおり」の２５日「茨城・いわき」部分を今朝５時間かけて、 ほぼ作り終えた。その過程で、色々確認。特に、参加人数３０名の保険加入のフルネームとか、宿の予約確認、ちょうど電話したら、ＦＢＦ、若だんな里見さん が出られたので、打ち解けてご相談。

７月１５日（水）

朝５時から１１時半まで、「旅のしおり」作成に集中。完成した。２０ページの参加者に配布する「完全版」と、８ページの支援者宛てメール用「ダイジェスト版」。結局、１９０００円徴収。レンタルバスの交通費と宿泊費、野馬追団体指定席料、各種施設入場料、懇親会費用、保険、初日「豪華」昼食代などを徴収。ただ、あとひとつ、残っている。初日夜のレストラン「メヒコ」の注文票。最初は、まとめて発注しようかと思ったが、メニューも色々。３０人の参加者は、各人負担で、好きに選んでもらい、当日時間に着席する頃合いに出来上がって、短時間で食事が出来るようにする。そのフォームをこれから作る。

７月１８日（土）

ＦＢを見ていて、硬派の音楽評論雑誌「音楽現代」８月号に、どうも、私の写真らしき記事。工藤さん、ありがとうございます。

《工藤さんのＦＢより》

「お待たせしました！ 月刊「音楽現代」８月号が発売されました！ 私の連載はついに＜30＞となりましたよ！ P.84－85 にあります。

今回のサブタイトルは予告しておりましたように ～1000 人のチェロ～ です。今回も大勢の方々にご登場いただいていますが、その中で写真と本文の両方に登場するのは高橋明さんと齋藤大介さんとソン・ウンホンさんです。

毎回、写真は３枚と決まっているのですが、今回はご覧に入れたいものが余りに多かったので、編集部に頼み込んで７枚にしてもらいました。それでも手元の 写真のほんの一部です。今回掲載できなかったものは、次回単行本の続編を作るときに “一挙公開” しようと思っています。どうぞご購読の上、周囲の方々にもお勧めいただけたら嬉しいです。」

７月 20 日（月）

１時、上野文化会館。待ち合わせ。凄い人混み。見れば、宮本亜門の演出、二期会「魔笛」。こちら「小ホール」は、アンサンブル・ラインコンサート。

面子が凄い。第１Ｖｎ手島志保、第２Ｖｎ平岡陽子、Ｖａ東義直、Ｖｃ和田夢人、そしてゲストＰｆ服部真理子、の面々。次に、凄いのは、このコンサートが、 カトリック赤堤教会でのチャリティコンサート第５０回を６月に終えた記念、として行われたこと。３・１１前からずっと主にアジアの貧しい子供たちらの支援 をしてきたようだ。「高い志」。東さんや手島さんの指導している生徒さんだけでなく、教会の信者さん、地元下高井戸のアマオケやママさん合唱団などのメン バーなど多くのお二人の人柄を知るファンが駆け付け、会場はほぼ満員。東さんとは、２０１２年３月石巻に無報酬で演奏参加頂いて以来のお付き合い。その数 か月後の郡山での手島さんと東さんのコンサートで、初めてお二人がご夫婦と知った。

さて、演奏曲目は、最初はハイドン弦楽四重奏曲「夢」op。５０－５、、モーツアルト弦楽四重奏曲ｋｖ。４２１という古典。一種、知らない曲でも、聴き慣れた感で安心。しかし、 休憩後は一変。まず、１９２９年生まれ、１９７６年没、という矢代秋雄の「弦楽四重奏曲」で一気に不条理、まず、冒頭がヴィオラの、それはそれは場内が し～んとする染み入るソロで始まり、カオスの中へ。２度音程の不協和音が怪しい世界へと導く。（この秀才作曲家はフランス留学で

のフランス音楽への馴染 み。一方でSM愛好家だったらしい)。そして最後が、ブラームス　ピアノ五重奏曲Ｏｐ。３４。やはり、ピアノが入ると、ガラっと迫力が増す。それも、ブ ラームスの得意な、５つの楽器をそれぞれ対等に響かせるので、聞く方もあちこちからくすぐられるようで、刺激が止まない。アンコールは軽くモーツアルトで デザート。

終わって、ロビーでお二人と少し歓談後、いつもの駅２階の文化亭で、３・１１仲間らと「９月」「１０月」支援打ち合わせ。朝霞に戻るとジャズの音色。腹が空き、「刀削麺」。充実した一日だった。なお、アンサンブル・ラインの次回は、９月２６日（土）オペラシティの近江楽堂。今度はクラリネットと共演の五重奏曲。また、東さんが属する古典音楽協会は、なんと第１５１回定期演奏会が、２日前の９月２４日（木）。こちらはバロック。ほぼ毎回聴きに行く。

「被災地体感ツアー　２０１５～相馬野馬追」報告

第１日目ー7 月 25 日（土）

①出発時から「大変」ー朝、７時半。新宿西口着。

８時出発の定刻過ぎても、女性３人現れず。

まず、「ごめんなさい、目覚ましが・・」のメール。

次に「ごめんなさい。体調不良で・・」女性１人、キャンセル。

最後は「ごめんなさい。今、スバルビルにいるんだけど皆さんどこ？」。表に出て、携帯電話で、長々やり取りし、ようやく発見！

30 分遅れで、28 人乗せ、スタート。

②茨城六角堂。昼食でビックリ！

予定より 20 分遅れで、茨城六角堂。３・１１で流された「岡倉天心」の「思索室」見学。俗人たちは、「波の音もＢＧＭ。ここは、別な目的だったんじゃ？」 と下司の勘繰り。貿易商の家業で英語を幼児から慣れ親しみ、今の東京外大、東大を経て、専修大教官、27 歳で東京芸大の２代目学長！という履歴にビックリ

徒歩３分。「いつも壮大な話に変人扱いされた」天心の「足」となった船頭を祖父にもつ、という近所の「船頭料理　天心丸」で昼食。予め、「とん でもないボリューム」と知って、「大皿盛り」で人数より２割減の予算で事前注文していたものの、行ってビックリ！余りの量の刺身と天ぷらに、一同絶句！（写真はそれぞれ一人前程度）個人客も、「ひとり前」が運ばれてくると、皆、苦笑するほかない。

ここの主、船頭さんから祖父と天心の話も聴き、12 時半、 予定時間どおりに終了。
表に出ると、船頭さん、半端な儲けでない繁盛ぶり、で、モダンな大豪邸がそそり立っていた。

③いわき「アクアマリンふくしま」見学ー皆、童心に帰るー

団体入場。「3 列、前へならえ」と号令。数日前にオープンしたばかりの「わくわく里山　縄文の里」から本館へ。３・１１の津波で、９割の魚が死滅、流失し たのを、懸命の館員と努力と、ボランティア、全国の水族館の支援で、４か月後に営業再開。水族館として、おそらく全国トップクラスの各コーナー充実ぶり。 自由行動なので、思い思い、立ち止まる。

その中で、「まあ、可愛い。こっちにいらっしゃい」などとまるで猫や犬を愛でるがごとくのわが団体メンバーもおり、また途中、水産大出身の中高同級生、ここで働いている後輩の若い知人を呼び出し、結婚相手の館員まで紹介され、２時間でも足りない。

出ると、マイカー ４人と合流。私たち「３１１有志」活動の「仮設」以来、と、再会を喜び合うメンバーもいる。これで、32 名全員揃う。

《閑話休題》

水槽の中のお魚ちゃん、鑑賞タイム。

④薄磯海岸、塩屋崎灯台ーいわき市内最大の津波被害。

住民の２割近くが亡くなった海岸地区は、先月まであった中学校も取り壊され、土盛りの最中。すでに灯台へは終了時間を過ぎ、登れず、美空ひばりの懐かしい、そして本当に上手い歌を聴きながら本ツアー、最初で最後の全員集合写真。

⑤マリンタワー、そしてタ食「メヒコ」～32 名注文にてんてこ舞い

マリンタワーは夏季 7 時まで。高所恐怖症の私は、決して縁には近寄らず。そして、タワー下のレストラン「メヒコ」で５時半すぎか ら夕食。予め注文していたので、次々運ばれ、が、新人の、またはバイトの給仕さんたちも不慣れ。何の料理か、時々不明になるも、私が給仕さんとともに「はい、これはこちら」と走り回って、ほぼ完ぺきに全員へ注文通り配膳。

⑥ホテル「古滝屋」～若旦那、そして和光への避難者～

７時半すぎにチェックイン。８時よりロビーで、予めお願いしていた若だんな里見さんの「３・１１の話」を聞く。その前に、一か月 ほど前だったか、和光市のカフェで姉妹で１時間お話した広野町からの避難者姉妹の姉。仕事で「いわき泊まり」なので、と「明日の野馬追いは暑いようで、差し入れ」と飲料水を２ダース頂く。

そして、里見さんが 30 分。

「まず、ここへ遠路来て頂くだけでも、いいんです。忘れられていないか、と不安が増す中、大変嬉しいんです。」と冒頭。そして、３・１１直後は従業員とその家族の避難場所となり、半年以上の休業を余儀なくされ、食堂は、外部業者へ委託したり、団体旅行客相手から、児童などのスポーツ団体受け入れ、などの経 営努力で、なんとか再開。かつて 140 人の授業員も、今は 20 人でこの大きな、そして元禄からの歴史ある旅館を運営している、と。さらに、避難所での「障害者と親の苦難」を知って、家を一軒借り、くつろぎの場を提供するなど、ＮＰＯで「障害者支援」も行っている、と。

その後、９時から 11 時まで、「交流会」兼「夕食代清算」。各人の事前注文とその場で注文した飲み物やデザートの代金清算を、ひとりずつ。総額 11 万。ほぼピッタリ。そしてその間に、互いに知らない者同士も、どんどん垣根が低くなった。

第２日目　７月 26 日（日）
①南相馬へ

朝 5 時前起床。いつものように、風呂で、1 時間読書。そして隣のコンビニで「昼食のおにぎりと飲み物」を買って、バイキングの朝食。

７時半出発。空いてい る常磐自動車道をスイスイ。途中から、外の風景は、黒い「汚染物」のトン袋の山、山、山。南相馬ＩＣ。が、出口で、仙台方面からは長蛇の列。渋滞で、指定された「創価学会文化会館」駐車場に９時半にようやく到着。すで に炎天下。10 分ほど歩き、ようやく、行列を待つ市民の中へ。

②野馬追「お行列」見物

炎天下、甲冑、鎧兜の軍団が、地域別に行軍。まず、２騎の「先鋒」が、「どけどけどえ～い」と、観客の最前列の邪魔者を排除。馬がすぐ目の前を駆け抜け、凄い迫力。皆、慌てて、下がる。

その後を、それぞれの地域ごとの御旗を掲げ、先祖伝来の旗を背負い、また役目を担い、粛々と、時に「伝令」の報告を大声で 「承知！」などと返し、前進、または停止などをしながら、進む。

その脇を神社の「ご寄附集め」の少年たちが「ごシンジ～ン（信心）」と大声で観客からお賽 銭集め。また、旗持ちや鉄砲隊なども多くは少年。

延々1 時間半の行列の最後は、パトカー。群衆は、次のステージ、甲冑競馬と、ご神旗争奪戦の会場へ移動。

《閑話休題、その２》

武者たちらの顔。最後は、先月伺った中村神社の「神主」。

③「甲冑競馬」

お行列を見終わり、ぞろぞろ、祭事場へ。大混雑。団体席Ｄ－１５は、見やすい中段の、しかも日よけになる松の木が一本ある。が、ともかく暑い。

始まる前に、このツアーのきっかけになった、昨年秋訪れた南相馬の仮設住宅の自治会長が挨拶に見え、「遠方で、日の丸の旗で、ネズミ色の馬に乗っているのが息子なんです。ぜひ応援を」。

７～８頭で数回のレース後の最後に息子さんが出た。そして、最初は３位の好位置。最初のコーナーで２位と競り合い、向こう正面で、一位と並び、そして、最終コーナーでぶっちぎり、一位。審判席で、認定証をもらい、総大将のいる山の上へ栄誉の凱旋。我々も大喜びしていると、携帯で、「皆さんの応援のおかげ」 と父親の会長よりお礼の電話。

④「ご神旗争奪戦」

号砲とともに、それぞれ４つの神社の４色の旗が地上１５０mに打ちあがる。ゆっくり落ちてくるのを武者たちが奪い合い、手にした者だけが、山の上で栄誉を 受けられる。その中には、女武者もいた。１時半になって、総大将、殿が行列作って帰路へ。騎馬武者、お見送り。

⑤国道６号線、富岡駅、そして帰宅へ

まだ、争奪戦は続いていたが、殿も帰られたので、数時間、３５度の灼熱の中で疲れきった多くの観客は、帰路へ。我々も、バスの駐車場へ。そして、常磐自動車道でなく、目的の「被災地体感」のため、国道６号を走り、未だ「沈黙」の浪江町、双葉町、大熊町経て、富岡町駅前へ。

線量は０．３１２。まだ、高い。そこで、「いつもの」バッタリ！なんと、大学の同級生で、同じサークルの友が夫婦で立っている。互いに「なんで？」。

そして、マイカーの４人がここでお別れ。　名残を惜しむ。

汚染物質焼却工場の横を通り、国道６号へ。もう日没。友部ＳＡで夕飯食べ、８時すぎに新宿着。解散。体重が２日間で２㎏痩せた。

最後にー

今回の第４回目の「体感ツアー」は、初めて、全員 60 代、70 代。これまでは、20 代、30 代、40 代も加わっていたが、「夏休み」近くで仕事を持っている人は、土日といえども他用があるのかも、と。そして、「同世代同士」円滑に進み、無事帰還。全体としては、問題なく、皆さんから最大限の感謝の言葉も頂いた。しかし、当然、「老人の暴走（？）」が散見。この方が「面白い」。冒頭のスタート時の「寝坊 30 分遅刻」「体調不良ドタキャン」からそれは始まった。基本的 には、「団体行動」からはみ出し、「自分の都合」優先。例えば、

・常磐自動車道のＳＡ

（写真は本文と関係ありません。以下同様）

「出発時間は、今から〇〇分後の×時×分ですよ。」。ところが、或る地点では、ひとり女性がトイレから帰らず、或る地点では、ゆっ くり男性二人、食事をとって雑談しており・・。さらに、最後の「遅刻者」を探しに行く私に、携帯電話が鳴る。「齋藤さん、帰りに冷たい飲み物買ってき て！」。もちろん、「スミマセン。もうバス近くまで来ているので」と嘘を言う。

・夕食代の清算

全員の事前注文や追加の飲み物、デザート注文も終わり、「皆さん、会計しますので、注文はここまでですよ。」。一括清算し、暫く時間を置き、さ あ、帰ろうとすると、「スミマセン。まだ注文した飲み物が来ないんですけど。」。「エッ？それは会計後ですよね。」「ええ、別にお支払すればいいんでしょ？」。

・懇親会

お互い初めまして、と隣同士が自己紹介。私は、「全方位」に外交し、或る初参加の男性の元へ。すると、開口一番、「あなた、私の許可なしに妻と話してましたね。」。冗談と言いながら、顔が笑っていなかった。奥様、70 代半ば。ゾッ！

・お行列終了、さて、祭事場へ。

お行列は同じ交差点付近で見物。「では、祭事場へ移動します。３列に並んで下さい。」。何度数えても１名足りない。携帯電話で連絡。すると、「今、入口付近に来てるんだけど、入場券がなくて入れない」。それでも、大混雑の中、入口付近で合流。また３列になって人数を数える。そして、全員にチケットを 配布するが、今度は一枚余る。おかしい。しかし、その場の全員は、「もらった」。で、入場すると、男性がひとり、立っていて、ほかのメンバーに「チケットなんかいらないよ。堂々と入れば、スッと通れる」と自慢。

・灼熱の催事場

団体席は当然場所指定。が、腰かけられる人は半数。残りは、その後ろで、地面に座るほかない。しかし、これに我慢できない男性、何度注意しても、いったん戻るが、また後ろの団体席に座る。当然、その団体の若者から、「冷たい視線」。一方、一本の日よけ松は、前の団体席にあり、そこの真後ろ だけは前が見えず、誰もいないので、気分が悪くなった女性を誘導。すると、暫くして、女性２人が移動。そこにいた前の団体の年配の男性や若い女性の横に 堂々と割り込む。すぐに飛んで行き、「そこはヨソ！」。

・さあ、帰り

ようやく全員集まったので、駐車場からバスは出発。そして５分。「あら、トイレに時計忘れてきたかも。」と女性。バスは、路肩で待機する も、まだ見つからず、ある男性は「俺が駆けってその辺の女性にトイレに入って取ってきてもらう。」と勇み、降りかかる。が、その彼の往復時間だけで 30 分 遅れになる。すぐ止め、車をユーターン。渋滞する道を戻りかける。すると、「あれ？こんなバックの下にありました！」。

ｅｔｃ。

７月２８日（火）

忘れ物など色々後始末やら、不在時に溜まったメールやら、バタバタ。そして、一息入れようとしたら、「昨日、段ボールが届いてたけど。」。福島県常葉町の個人医院夫妻からの「桃」。フルーツ王国福島の飯坂温泉産。奥様が大学のサークルの先輩。２年前、第１原発から３０㎞の常葉町の公民館で１５０人集 め、「昭和の懐かし歌謡」を主催して頂いて以来のお付き合い。多分、お子様のおられる家庭では、いくら「放射能検査済み」と言っても、躊躇するかもしれない福島産の食材。一昨日、国道６号線を通過するときも、ハンカチで口を覆い、息を止めている方がいた一方、まったく意にかえさず、笑い飛ばす方も。ここか らは個人の判断は分かれ、正解はないが、私は３・１１とは関係なく、元々、今命尽きるとも、と日々過ごしており、子供たちもすでに大きいので、全く問題なく、今が旬の大好物、有難く頂く。

８月５日（水）

「宅配便」。福島県常葉町の、先日、「桃」を送って頂いた大学の先輩から。開けると、２つ。

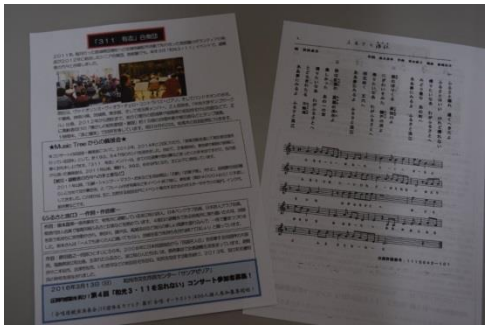
①佐々木孝著「風景と物語の創造～モノディアロゴスⅫ」ー多分、市販されない「自費出版」本。毎号頂く。大学の サークルの先輩。３・１１が無ければ、この先輩の著者のことを知る機会は無かっただろう。この著者が有名になったのは、ＮＨＫなどで幾たびか、「避難命令」にも「重度の障害をもった妻」を想い、残留した「元大学教授」ということで。残念ながらまだ一度もお会い出来ないでいる。

②福島県穴原温泉、山房「月之瀬」チラシー同封された手紙によれば、「同級生」（大学？）の経営者が、２０年前に妻を亡くしながら、息子と３・１１以降の風評被 害での落ち込みをカバー。しかし、昨年６月に火災で営業中止を余儀なくされ、銀行融資もあって、営業再開。今が一番苦しい時、ぜひ、利用して欲しい、との こと。これまでに、福島県内は、近くの土湯温泉「ニュー扇屋」と、いわき湯本温泉「古滝屋」が常宿。次回福島泊まりはいつになるか。

８月１３日（木）

午後から、浦和で開催される「９月５日　東日本大震災チャリティーコンサートMusic Tree」に出演する「３１１ 有志」合奏団の本番前練習会場を借りに和光市中央公民館へ。しかし、音楽室も視聴覚室もすでに予約があり、ダメ。なので、次は、和光市社協の「音楽室」。すると、今のところ 空いているので、「予約」。

８月２５日（火）



上記合唱コンサートで「ふるさと浪江」を伴奏、合唱団と観客船員で歌ってもらうため、歌詞カードと自己紹介、それに義援金報告などのチラシを印刷。

９月５日（土）「東日本大震災チャリティコンサート　Music　Tree」。

南浦和の「埼玉市文化センター」。
２時開演。８組の合唱団などが次々登場。３番目がわが「３１１　有志」合奏団。
①チャリティコンサートの「募金」。

2011 年から毎年開催している入場料無料の「Ｍｕｓｉｃ　Ｔｒｅｅ」合唱イベント。過去に２回、募金や収益金 19 万円を「３１１　有志」に活用を任され、寄付頂いた。
②「末は音楽家？」。１歳 10 か月。

コンサート会場で最年少観客。入ってくる時から、受付のオバサマたちから大注目。さすがに最後尾の観客席で、いつでもグズれば出れる体勢。しかし、コン サートが始まると、手拍子で体を揺すり、そしてそれらしく歌い出す。周りの観客もこの「騒音」を快く見守ってくれて、その周辺はさらに暖かい空気が流れていた。そして、なんと、この親子、「合唱団」でご一緒の某「お酒大好き」ソプラノで、このコンサートの合唱団にも参加している方のお嬢さんとお孫 さんだった。

③「ふるさと浪江」＆「故郷」全員合唱しました。

「３１１　有志」合奏団の出番。私はＭＣ。２時 35 分から 55 分まで、という出番を「時間通りに始め、終わらせる」ことに集中。座席やマイクセットの間に 挨拶、自己紹介。そしてタンゴ４曲の一言紹介をして、４曲１５分続けての演奏で時間短縮。最後に残り３分半も有効活用し、「ふるさと浪江」斉唱。観客の皆 さんは、プログラムに挟み込んだ「ふるさと浪江」の歌詞カードを見ながら、そして、事前に参加合唱団には楽譜を配布頂いてたおかげで、会場は歌唱指導なしに、大きな歌声に包まれ、大成功。でも、ひとつだけ急ぐあまり失念。「こちらの会場に浪江町ご出身の方、いませんか？」と聞くのを忘れた。そして、全ての プログラムは終了。また合奏団が登壇し、「故郷」を、全員で歌って閉幕。

④打ち上げは大変なことに？

駅近くの地元スーパーの６階の中華。貸切です。80 名の参加者のうち、半数程度が参加。そして、各７団体の挨拶で、「事件勃発」。当然、合唱団の自己紹介 は、歌で、と一曲。すると、店の人が飛んできて、「スミマセン。ここはほかのテナントさんもいますので、歌はご遠慮ください。」。しかし、次の合唱団以降 も、「じゃ、静かに」「ピアニッシモで歌いましょう」などと懲りない面々。さすがに店の人は、渋い顔しながら、諦め顔。私はもっぱら、20 代前後の学生さんその仲間たちと「音楽とは無縁」のネタで笑い転げてました。

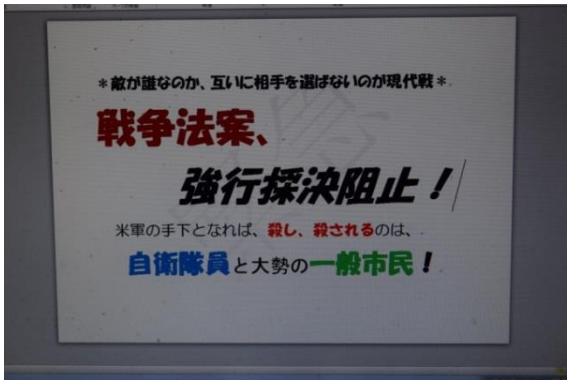
９月６日（日）相馬の仮設住宅サポートセンターへ

前夜の飲みが２軒はしごの１１時帰宅。
なのに、４時半に起き、酔い覚ましのシャワーを浴び、５時２０分に、相馬へ出発。
８時半に目的地の「大野台仮設住宅内高齢者等サポートセン ター」到着。
３時間で、３５０㎞。おかしい？いいえ、双葉町近辺では線量４．６。「最大のスピード」で通過は非常時対応。

で、充電中のバッテリーを忘れ。カメラだけ持って出てきてしまった。
なので、今回の写真は、全て今年３月１日 に同じ場所に行った時の写真。
この時は、富岡ＩＣから先は通行禁止だったが、今は全線開通。
朝の慌ただしさで、大チョンボ、もうひとつ。必須アイテム、「歌謡曲・童謡歌集」を置き忘れ。これは、なんとか会場近くのコンビニで２０セットコピーし、ことなきを得た。

朝１０時から１２時、昼休みはコンビニ弁当。１時から３時まで２回戦。足湯部隊とのコラボなので、足湯の順番待ちの避難者の方々と歌う。ちなみに、ほとんどが飯館村、浪江、南相馬などの避難者で、地元相馬の津波被害者は、ほぼ仮設から復興住宅や自宅を購入して仮設から出て行った、という。午前、午後合計 ４０人来場。足湯マッサージはその半分だった。しつこいが、この写真は、３月の時。今回は、その時の半分以下の人数で、盛り上がりも半分以下だったが、そ れでも、笑顔で大きな声で歌ってくれた。午後９時、帰宅

９月１６日（土）「安保法制」強行採決反対へ



東北支援で、何の関係が？あるんです。示し合わせたわけでもないのに、「３１１　有志」のメンバーの何人かがそれぞれ行く、のメール。別に現地集合でもなく、そもそも、「３１１有志」は「勝手連」なのだ。災害復興住宅はじめ、東北の復興を阻害するオリンピックを「放射能汚染は完全にコントロールできています」などと嘘を言って強行。火山王国での川内原発再稼働も強行。さらに、３・１１や茨城では「英雄的」だった自衛隊員が、アメリカの手先で殺し、殺される法案も強行。全てがつながり、東北での安倍政権の支持率は全国より悪くなる一方。

私もひとり、ポスターを作り、コンビニでＡ３に拡大コピー。東武東上線から有楽町線に乗り換える和光市駅には、あちこちに数人のご年配方、その匂い。乗ると同じ座席。案の定、「戦争法案」「国会前」などと飛び交うデモ参加者。車内の掲載広告も、「安倍はやっぱり何も分かっていない」（安保法案強行採決を許さない。第７弾）。「週刊女性」の広告。

６時前、永田町駅下車。それなりにエスカレータ、階段とも混む。信号渡ると、もう集会開始前のミニ演説で混みあう。立教大のプラカードも見える。さて、ここは国会議事堂のどこかな？と見渡す。そのうち、地下鉄「国会議事堂前」に差し掛かる。目の前を、「福島希望の牧場」「東電・国は大損害　つぐなえ」と書いた宣伝カーが通り過ぎる。

国会の通用門には、次々と黒塗り。国会議員が登庁してきているのか。

６時半から集会開始。　各所に設置されたラウドスピーカーから、登壇する弁士、例えば社民党の「ピースボート」議員、「公聴会で女性の発言はひとりも認められなかった、女性無視 だ、と委員会室の先頭に女性議員が頑張っています。」などとどこにいても聞こえる。

そして、ときどき「コール」と称し、若い男女が、「アベ、ヤメロ」「ホ ウアン、ハイアン」などと繰り返し。なるほど、シュプレヒコールというより、ラップの乗り。そして、ようやく正門前へ、信号を渡れば、なのだが、ともかく 人混みと警察の規制で、渡れない。仕方なく、まず、遠回りしてようやく正面玄関前の歩道へ。

正門前の広い道路を「歩行者天国」にすれば、何と言うことないのに、わざと両側の歩道も半分だけの仕切で、「通行確保」。そしてズラッと警官の列。結局、正門方面に近づくと、もう身動きが取れず、警官ともめてる。これ以上は行けないので、また来た道を引き換えし、反対側の道路へ。「労組」「９条の会」「反原発」「辺野古反対」などのグループ。それに、倍する「組織されない一般市民」。こっちの道路も先に進めない。なので、警官に、「どこがすいてますかねえ」と尋ねると、親切に「この先、だいぶ行って、左折すると・・。」はい、首都高沿いに人気が少なくなった道を歩く。
社民党の宣伝カー のはるか先に国会議事堂。

そして、国会図書館前を昇ってゆくと、何のことはない。最初に着いた裏門へ。
７時。仕事帰りのサラリーマ ンやＯＬ、子連れなどが、何分かおきに、どっと永田町駅から吐き出される。１時間前にここに着いた時は、年配者主体だったのが、大きく若返り。歩き疲れて、腰かけていると、両側の４０代の男女となんとなく話始め、それぞれひとりで来ている者同士と分かり、１０分ほど話す。が、男性の携帯が鳴ると、「もしも し。今日はパパは遅くなるからね。」と言いながら消えて行った。一方の女性は、台東区から。会社帰り。職場では「安保法制」の話は出来る雰囲気ではない、 と。主に反原発で参加してきたらしい。そして、互いに名乗らず、別れ、８時。夕食を食べていなかったと帰路。

９月１９日（火）
「東日本大震災チャリティーコンサート～ロシアの歌姫＊エカテリーナ」

午後から、近くの新座ふるさと館で、「被災地体感ツアー」以来の付き合い、気仙沼大島支援のメンバーたちの主催で、ほぼ２００人強、９割の入り。

まず、新座の「和太鼓鼓輪」のほとんどが少女たちの力強い、会場を揺るがすリズムに圧倒され、幕の合間に、主催者「緑の真珠・アスナロウの会」の保田代表 が、しっかり、３・１１前後から現在までを分かり易く、的確に話す。そのあと、エカテリーナさんの、なんとピアノとチェロの伴奏での「しっとりしたロシア の名曲」。休憩挟んで、和服のリメイクドレスのファッションショー。

次に作曲編曲家、梅垣達志さんのギターも加わって、チャイコフスキー「ピアノコンチェ ルト」を梅垣さんが編曲した平原綾香並みに「クラシックの名曲の歌」バージョン。（そういえば、前半では、ショパンの「ノクターン」もロシア語で歌った）。そして、ＮＨＫ「みん

なの歌」彼の作曲「アスナロウの木」や、「カリンカ」などを観客と共に合唱。観客は、「いやあ、良かったねえ」「これなら今度 は友達呼べるね」。なにしろ、会場は、９割以上が６０歳以上の女性。曲と曲のわずかな間でも、もうさざ波のような話声が会場全体。そして、演奏が始まる瞬 間に止まる。この繰り返し。クラシック会場ならすぐに係員が飛んでくる。凄いエネルギー。

会場では、保田代表はじめ、「和光３・１１を忘れない」コンサートのホールで気仙沼物産販売をしていた方々や、コンサートを聴きにこられた女性たち、

エカテリーナさんと同じ事務所の、「団塊の世代」代表の秋田さん、二胡奏者、野沢香苗さん、元高校校長で支援活動されている熊谷さんなど色々。
そして、 また今回の新座の主催者「復興の輪ゾウキリン」代表森田さんなど初対面の方々とも保田さんの紹介でご挨拶。

もちろん、エカテリーナさんも私を覚えていてく れて、手を振って、「この人、私の日本の父なの」と紳士とパチリ。それにしても、和太鼓の子供たち、近くだと小柄なのに、ステージではとても大きく躍動。 お疲れさん。

９月 25 日（金）古典音楽協会コンサート

６時半、上野文化会館。第１５１回（！）定期演奏会。60 年間の歴史。
すでに開場が始まっている。「３１１　有志」仲間２人、小学校の同級生１人と待ち合わせ、「３１１　有志」絡みの石巻支援でご一緒したヴィオラトップ、東義直さんの「招待状」で入場。
7 時コンサート開始。題して「楽しいバロックの名曲」。まずテレマン組曲「古代人と現代人」、知らない作曲家バ ストンのリコーダー協奏曲第５番、そして現在、メサイヤでお世話になっているヘンデル「合奏協奏曲」。一味違う。休憩挟んで、有名なバッハ「チェンバロ協 奏曲」「ヴァイオリンとオーボエの協奏曲」。アンコールは、バッハ「コラール」。後半は聴き慣れたバッハ。

終わって、いつもの駅上の居酒屋。20 分後、ヴィオラ東さん合流。演奏者からの「秘話」も聞いたが、ここでは内緒。ともかく笑った。豊かな気分。

以　上